

# 府中市の高野浩太郎さん

## 現地ルポ



東京都府中市にある高野農園の高野浩太郎さんのミニトマトは、糖度が10度になるものもあり、甘く、味が良くと市内でも評判を呼んでいる。市内の人気イタリア料理店でも、大切な食材として振舞われ、そこで高野さんのトマトを知る人も多い。高野さんのトマト栽培に欠かせないのが「テヌートの光合成効率促進装置「コンダクター」」だという。

高野さんは、多摩地域 高野さんは、ハウス栽培のミニトマトを出荷している。くれる人も多い。その魅力に展開するスーパー、府中で、冬の比較的品薄 栽培する品種は「べに力」を最大限発揮させるため、中市内の直売所等にミニで、引き合いの強い時期「すずめ」。「甘い品種」に色々と工夫をしている。10月中旬〜6月頃）に、リピーターになっている。出荷時の鮮度にも気を



CO<sub>2</sub> & Air 施用エリア



CO<sub>2</sub> & Air 非施用エリア

をつけているが、栽培環境にも気を配っている。品種にしても鮮度にしても、地産地消だからこそできることをやっている。栽培環境については「トマトは、15〜25度が生育しやすい。この時期に出荷するため、ハウス栽培で最適な気温を保つようにしている」とい

## 評判のトマトを栽培

### テヌートの光合成効率促進装置

加えて、CO<sub>2</sub>を施用することで品質・収量の増加を図っている。そこで活躍するのがテヌートの「コンダクター」だ。高野さんが、「コンダ」という意味でも、テヌートの機器を入れてから、収量、品質がは、平成28年。試験的にた。CO<sub>2</sub>を与えると、上がり、味が良くなっ

1)でCO<sub>2</sub>を施用し、その結果、3分の1えて、実に糖がいきわたでもテヌートの機器をの面積にも関わらず、3り、甘く、美味しいトマトがでる。最後に高野さんは「新しい技術で試してみたい」と語っ

この時の収量が約8t。次の作のときは、全面の葉の周辺にCO<sub>2</sub>とエアを、培地にエアを流した。そうすると、さらに、収量が上がり、約10tになったという。高野さんは「CO<sub>2</sub>を流し始めてから、明らかに収量が上がった。CO<sub>2</sub>がいいことは、以前から知ってはいたが、テヌートの機器だと、局所施用だから、コスト面も無駄がないのいい」続け



「収量・品質が上がった」と高野さん